

『夕日』 作…ポチ子

空を、景色を、赤く染める夕日。

私はその色が大っ嫌いだった。

赤ともオレンジとも言えない、

燃えているようで強くない光が嫌いだった。

私にとって夕日は、

今日の事を終わらせる悪者だった。

夕日さえなければ、

夜はこないのに。

真剣にそんなことを思ったりして。

大人になった今でも、

夕日を好きになれない。

夕日が綺麗なものと扱われると、

何となく腹が立つ。

あんな色の、

沈むだけの太陽の、

何が良いつていうんだ。

そうやって愚痴を吐く。

でも、時々思うのだ。

もし、私も皆と同じように、

夕日を好きになれば、

夜を恐れずに生きていけるのだろうか。

— 終わり —